

医学・歯学・薬学・保健医療学部・富士吉田教育部教育者のためのワークショップが開催されました

歯学教育推進室 片岡 竜太

医学・歯学・薬学・保健医療学部・富士吉田教育部教育者のためのワークショップが、8月5日（金）、6日（土）に神奈川県葉山町 IPC 生産性国際交流センターで開催されました。今年度から医学部、薬学部に加えて保健医療学部、富士吉田教育部と同時開催で、名実共にオール昭和のWSになりました。今回から各学部1テーマになり、歯学部は「臨床実習を充実させるためのカリキュラム検討」に取組みました。歯学部でも分野別認証評価が検討されており、その中で臨床実習の充実が求められています。診療参加型臨床実習（自験）を文科省が推奨するようにさらに充実させるために、また、世界的に72週の臨床実習を基準とする医学部と同様に臨床実習期間を延長する必要があるかどうかについて検討しました。協議の結果、以下のような原案を作成しました。4年生を3学期制にし、従来の各ユニットの定期試験の後に共用試験（CBT、OSCE）を実施し、合格者に対して白衣授与の後で臨床実習Ⅰを実施します。臨床実習Ⅰでは相互実習などによる基本的診療技術の修得を図り、臨床実習Ⅱに備えます。4年生の進級判定は臨床実習Ⅰの評価と進級試験で行います。5年生に行う臨床実習Ⅱは基本的に現行通りですが、各科でミニ OSCE を実施し、進級試験では臨床実習を通じて習得すべき内容の臨床実地問題を出題します。6年生では約2ヶ月半で選択必修の臨床実習Ⅲを実施後、iOSCA でコンピテンシーの到達度を評価します。

一方、実現に伴う課題もあげられました。最も大きい課題は臨床実習生が複数学年重なるので、病院内の教育スペースが不足することと指導教育職員の負担過重です。昨年WSのプロダクトである「チーム医療臨床実習」は、今年度から実施され充実した内容になっていますが、今回のプロダクトも美島教育委員長を中心に来年度から実施できるように、実習担当の責任者を交えて、これから検討を行う予定です。

4学部合同は「入試における面接評価について」と「在宅チーム医療カリキュラムのブラッシュアップ」医学部は「コンピテンシーに関連したカリキュラム作成」薬学部は「薬学研究の活性化 ー学部生の研究指導についてー」保健医療学部は「急性期ベットサイドリハ実習体制構築」富士吉田教育部は「東日本大震災による短縮カリキュラムの教育に対する効果の検証」に取り組み、いずれも来年度のカリキュラムに早速取り入れることができる完成度が高いプロダクトが提案されました。

東邦大学医学教育開発室 廣井直樹先生には「東邦大学医学部入学試験での Multiple Mini Interview の取り組み」というタイトルで、新しい面接試験である MMI の利点と実際について従来型の面接試験と対比してわかりやすく話していただきました。本学においても導入が可能かどうか、検討を進めることになりました。

オール昭和の活発な討議の後、学事部も含め 100 名以上が参加する合同の懇親会が開催されました。昭和大学の重要な課題とその解決のプロダクトに触れ、それがすべて来年から実施されるこのWSはまさに昭和大学の推進力だと思いました。最後に運営を支えていただいた学事部の皆様に感謝します。

